

松江市が手続き了解

島根3号機の審査申請

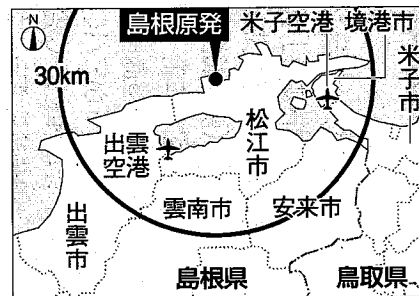
松江市は3日、中国電力が建設中の島根原発3号機(同市、出力137万3千キロワット)について、運転開始に向けた手続きを進めることに同意した。一方、島根県は周辺自治体の判断も踏まえて結論を出す方針で、賛否の表明は今月下旬以降となりそうだ。

中国電は5月、島根3号機が国の新しい規制基準に適合するかどうかの審査を原子力規制委員会に申請する方針を示し、立地する松江市と島根県に事前の了解を求めていた。

松浦正敬市長は同日の市議会で「了承したい」と述べた。議会後の取材でも「ほぼ完成している原発で放っておくわけにはいかない」などと語った。中国電の清水希茂社長が5日に市役所を訪れた際に正式に伝える。

中国電は今後、島根県の同意が得られれば、手続きを進める方針。溝口善兵衛知事は原発から30キロ圏にある島根県の雲南、安来、出雲市、鳥取県と同県米子、境港市の周辺6県市の意向も踏まえて判断する意向を示している。

また、周辺自治体の中には松江市や島根県と同じように事前了解の権限を求めているところもある。4日には島根県の3市が中国電を訪れ、申し入れをする予定だ。日本原子力発電の東海第二原発(茨城県東海村)は今春、再稼働にあたっては周辺自治体にも事前



の了解を求める安全協定を結んでおり、中国電の対応も注目される。

島根3号機は、Jパワー(電源開発)の大間原発(青森県大間町)などと同じく2011年の東日本大震災で建設が中断。施設は震災前にはほぼ完成しており、手続き次第で震災後初の新設原発の稼働となる可能性がある。

(長田豊)

「各意見踏まえ判断」

松江市、3号機審査申請了承

松江市が3日、中国電力島根原発3号機（松江市）の安全審査申請を了承した。安全協定に基づいて、中電から「事前了解」を求められていた。市は5日に同市役所を訪れる中電の清水希茂社長に文書で伝える。

「市議会や安全対策協議会（安対協）、住民説明会で出た意見を踏まえ、市として了承したいと考えている」

松浦正敬市長はこの日の市議会の閉会あいさつでこう述べ、中電の審査申請を容認した。国に対しては厳格な審査を求め、中電側の丁寧な情報提供なども要請するとした。最終的な稼働の是非は国の審査後に改めて判断する。

松浦市長は今回、了解の根拠として、市議会や、自治会や各種団体の代表でつくる安対協、住民説明会での各意見を踏まえたとした。ただ、6月29日にあった

市議会全員協議会では、容認の意見が大勢を占めたものの、安対協や住民説明会では反対意見が相次いだ。松浦市長は市議会閉会後の取材に対して、「（安対協では）賛成の人は発言しなかった。反対は原発そのものに反対で我々の立場とは相いれないが、安全性をきちっと踏まえてやるべきだとの意見だと思っている」と述べた。

松浦市長は、5月22日に中電から事前了解願を受け取った際に「申請に大きな課題はない。早急に審査を受けて安全性を確認する必要がある」と発言。6月25日に開かれた安対協でも

「市民の安全安心の確保のため原子力規制委員会による安全確認が必要」と話すなど、一貫して申請に前向きな姿勢を示してきた。

30キロ圏の周辺5市では県内の安来市と出雲市が申請了承を表明している。一方、鳥取県米子市は6月24日に市議選を終えたばかりで、新議員による議論を経た結論は7月後半以降になる見込み。

松江市とともに安全審査入りの事前了解を求められている島根県の溝口善兵衛知事は、鳥取県側の意見がまとまるのを待って判断を示す姿勢を見せている。

（長田豊）



島根原発3号機の安全審査申請を事前了解した松江市の松浦正敬市長＝松江市末次町

松江市の広域避難計画は

2018.7.4
朝

渋滞対策 住民理解に課題

立地自治体として、島根原発3号機の稼働に向けた第2段階に、GOサインを出した松江市。自治体に策定が義務づけられた避難計画はこうなっているのか。

市は2011年3月の福島第一原発事故を受け、県や周辺市と、原発事故を想定した計画の検討を開始。12年11月に約20万人の市民全員を県中西部と広島、岡山両県の29市町に避難させる、県の避難計画がまとまった。市は14年3月に避難の詳細を書き込んだ独自の広域避難計画もまとめ、市内各地で住民説明会も開いた。訓練などを続け、計画の実効性を高めようとして

いるが、課題も多い。その一つは避難時の渋滞対策だ。

市は住民の多くが自家用車で避難すると想定している。そこで、大橋川にかかる松江大橋、新大橋、宍道湖大橋、くにびき大橋の4橋や信号機の多い市中心部を極力避けるルートを設定。さらに、原発から5キロ圏内の住民を優先的に避難させ、それ以外の住民に数日間の屋内退避を求める段階的な避難を呼びかけている。

しかし、理解が進んでいないと言いがたい。松浦正敬市長は6月7日の定例記者会見で「とにかく真っ先に逃げるというの

は分からないでもないが、それをあつてしまうと本来に道を歩むてしまう。本当に逃げなければいけない

5キロ圏内の人たちが出られなくなるというところは理解してもらわないといけない」と述べた。(長田豊)

は分からないでもないが、それをあつてしまうと本来に道を歩むてしまう。本当に逃げなければいけない

5キロ圏内の人たちが出られなくなるというところは理解してもらわないといけない」と述べた。(長田豊)